

いわての復興教育



今年度も、平成28年9月30日(金)に東山地域交流センターにおいて『復興教育担当者研修会』『復興教育講演会』を行いました。午前の復興教育担当者研修会は、講義と2つの実践発表・協議を通して「実践的な防災教育を中核とした『いわての復興教育』について考える機会となりました。午後の講演会は、講義と講演を通して主に「学校の防災力の向上」について考えを深める機会となりました。

復興教育担当者研修会

管内の小中学校から1名参加の悉皆研修として行いました。実践発表では、実践的安全教育総合支援事業(いわての防災スクール)の指定校2校から、今年度の取組を実践発表していただきました。

講義 「副読本を活用した復興教育の充実」

<研修者の感想から>

- ・復興や防災について学んだ児童生徒とそうでない児童生徒の差は大きなものになる。学校として、適時性のある実情に応じた取組をしたい。
- ・復興教育副読本の年間活用計画について、①いつ、②どこで、③副読本のどこを、④どのように、をチェックし、見直したい。

協議 「副読本を活用した復興教育の充実」

<研修者の感想から>

- ・中学校区で情報交換できよかった。お互いに取組を知り、同じベクトルで進むことが大事だった。
- ・副読本を活用する計画にしたがって、確実に実施していくことが大切。取組を充実させる協議ができてよかった。
- ・小中学校のつながりという視点で協議できた。9年間の積み上げという意識を持ちながら連携を深めて進めていきたい。
- ・他校の避難訓練の持ち方や登下校のさせ方も参考になった。



実践発表 実践的な防災教育を中核とした『いわての復興教育』について

奥州市立衣川小学校の実践

- ・被災地見学(修学旅行)や防災アンケートの実施
 - ・緊急時下校マニュアルによる小中連携した下校訓練
 - ・防災マップ作りによる防災訓練(岩手大学教授に学ぶ)
- 発表者 渡邊 久仁恵 先生

一関市立本寺中学校の実践

- ・栗駒山の調査と火山防災学習(岩手大学教授に学ぶ)
 - ・防災体験(県立総合防災センターを活用)
 - ・フラワーロード活動(陸前高田市の花壇整備)
- 発表者 伊藤 真由子 先生

★「自助」と「共助」の精神や「主体的に行動する」態度を身に付けるための教育活動を、両校から具体的に聞く貴重な機会になりました。懸念される災害は、地域によって異なります。地域の実情に応じた実践の必要性が共有されました。

<研修者の感想から>

- ・津波に限らず、水害、噴火、土砂崩れ、ゲリラ豪雨など、地域の実態に応じた「そなえる」防災教育を進めていく必要性を感じた。
- ・「減災の観点」からの取組は大切だと思った。
- ・衣川小学校の下校訓練の実践が大変興味深かった。保護者にも協力していただくことで、いざというときに混乱なく実施できると感じた。
- ・本寺中学校は、生徒の活動としてカリキュラムが根付いていると思った。須川岳(栗駒山)に一番近い学校の生徒としての意識が変容していくのが伝わってきた。

復興教育講演会

講義 「防災意識を高める」

講師：盛岡地方気象台

地震津波防災官 湊 幸悦 氏

防災気象官 三上 康治 氏

★防災及び減災につなぐための事前の備えや緊急時の対応の重要性について学びました。また、8月30日に大きな被害をもたらした台風10号の情報を通して、豪雨災害の恐ろしさについても意識を高める機会になりました。

<参会者の感想から>

- ・地震のメカニズムや緊急地震速報のシステムがよく分かった。避難訓練の見直しを考えたい。
- ・気象災害の増加が懸念される。私たちは、その情報を早くキャッチして防災に生かすことが大切だと感じた。
- ・正しい知識を持って、自分の命をどう守っていくか、計画的に指導していく大切さを学んだ。

講演 「東日本大震災の被災から」

～小学校長として直面した日々～



講師：奥州市立水沢南小学校

佐藤 良 校長

★震災当時、大槌町立吉里吉里小学校長として、陣頭指揮にあたられたときのご苦労などを詳しく話していただきました。

<参会者の感想から>

- ・震災後の避難所運営や学校としての機能回復に向けて、どのようなことを考え、判断したのかを聞くことができ、勉強になった。
- ・現在勤めている学校が避難所になったらどのように対応すべきか考えておかなければならないと思った。
- ・地域と協力体制を築きながら教育活動を進めていくことの大切さを改めて感じた。
- ・東日本大震災のことを風化させないためにも、私たちが常にアンテナを高めていくことが大切。いわての復興教育の重要性を再確認した講演だった。